

# 病院運営・人材育成で連携

協定書にサインする  
川原専務理事（右）  
と、アリ・パール・  
マスダル州知事

## 偕行会グループ

医療法人偕行会グループ（名古屋市中川区法華、川原弘久会長、電話052・363・7211）は、インドネシア中部の西スラウェシ州と、病院運営と人材育成に関する連携協定（MOU）を締結した。

## インドネシア 西スラウェシ州と協定



病院経営と固い握手を交わす川原専務理事とアリ・パール・マスダル州知事

西スラウェシ州の人口は約135万人と、コラカ県に比べ4倍以上多い。同州は、看護系人材約2千人の育成や日本式の医療・介護技術の導入など偕行会の協力を期待している。調印式で、同州のアリ・パール・マスダル知事は

「インドネシアで実績がある偕行会グループの力を借りたい」とあいさつした。これに対し、偕行会グルー

## 高度なノウハウ提供 現地医療サービス加速へ

6月に同国コラカ県とMOUを締結したが、州と締結するのは初めて。日本の高度な医療ノウハウを伝え、回国での医療サービスの展開を加速させる。

（倉科信吾）



MOU締結を喜ぶ偕行会と西スラウェシ州の関係者

プの川原専務理事は「インドネシアの医療・介護の発展に、一層尽力したい」と述べた。

偕行会グループは2014年7月、日本の医療グループとして初めて、首都・ジャカルタにクリニックを開設した。日本の病院での勤務経験があるインドネシア人看護師が在籍し、日本の各種検査機器を使って医療サービスを展開している。

また、16年12月には、南スラウェシ州パレパレ市と「透析医療技術提供に関する覚書」を締結。17年から透析患者への運動療法・栄養指導、スタッフ育成などのノウハウを提供している。

こうした実績が高く評価され、今回のMOU締結につながったようだ。

中部経済新聞社提供